

## 6 「技」分科会 要旨

*San-En-Nanshin Summit 2014 in Ensyu*

「技」分科会では、「持続発展的な産業集積の形成」をテーマに意見交換がなされた。

コーディネーター	光産業創成大学院大学	リエゾンセンター 長	江田 英雄
報告者	浜松市	産業部長	安形 秀幸
行政	湖西市	市長	三上 元
経済	磐田商工会議所	会頭	高木 昭三
経済	浅羽商工会	会長	大石 重樹
経済	菊川市商工会	会長	鈴木 正太郎
経済	御前崎市商工会	会長	阿形 好男
経済	豊橋商工会議所	会頭	吉川 一弘
経済	田原市商工会	会長	河合 利則
経済	新城市商工会	会長	本多 克弘
住民	奥三河自然と歴史にふれあう会	代表	加藤 博俊
住民	一般社団法人南信州ここに	代表理事	木下 利春

(敬称略)

### ■はじめに

コーディネーター／光産業創成大学院大学  
江田リエゾンセンター長



皆さん、こんにちは。光産業創成大の江田と申します。どうぞよろしく申し上げます。

今日は、豊橋商工会議所の吉川会頭はじめ、皆様、どうぞよろしく申し上げます。

本日の進行ですが、最初、事務局から前回の議論のおさらいと今回のテーマについてご説明いただこうと思います。次に浜松市産業部の安形秀幸部長から遠州地域のものづくり産業の現状と中小企業支援についてと題してご報告いただこうと思います。その後、意見交換を行いまして、今後推進する事業等につきまして議論していきたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

### 事務局

それでは、前年度の議論について、おさらいをしたいと思います。

前年度の議論のまとめということで、前年度、飯田での「技」分科会では参加者により

まして事例報告をもとに議論をされました。

まとめますと、以下の3点となります。

一つ目、「ヒト・モノ・カネ」が集まる魅力的な新産業を積極的に生み出していく必要性がある。経済・社会環境等の状況が急速に変化している中で新産業の創出に向けた集積化と連携した展開を具体的に進めていくべきである。

二つ目、集積産業をさらに発展・拡大させていくために必要な人材は大学だけに偏ることなく、行政・企業あるいは諸団体間での相互連携に踏み込んで、より自主的な仕組みを構築していく必要がある。

三つ目、技の分科会で議論された内容に関係する組織体にフィードバックし、新たな視点で結果と結びつく具体策を検討し、実務としてどう進めていくのがよいかという提案型の議題に上げていきたい。これが前回までの三つのまとめということになります。

今回の議論のテーマでございますが、地域の強みである産業基盤を最大限に生かし、三遠南信地域基本計画や地域イノベーション戦略推進事業、国際競争力強化地域による広域連携による産学官連携を一層強化し、国際的視野に立ちオープンイノベーションによる技術革新、成長市場へのチャレンジ、人材育成を推進し、地域産業の協力強化、新産業の創出を目指すなどの重点プロジェクトへの推進状況の確認・評価を行い、次年度以降どのように進めるか議論するという事で、ビジョンの「技」分野の基本方針である持続・発展的な産業集積の形成というテーマを今回設定しました。

以上でございます。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

ありがとうございます。事務局より説明いただいた3つの点について、第1に地域としてどのように取り組んでいけばいいか議論を

したいと思います。

第2に、人材育成の点に関して、第3に、これからのものづくりという点に関して進めていきたいと思います。

それでは、それに先立ちまして、遠州地域のものづくり産業の現状と中小企業支援についてと題して浜松市産業部長の安形秀幸様、お願いいたします。

#### ■報告

##### 浜松市 安形産業部長

皆様、こんにちは。ようこそ浜松へお出でいただきまして、ありがとうございます。

私は浜松市の産業部長の安形と申します。15分間お時間をいただきましたので、遠州地域のものづくり産業の現状と中小企業支援についてというテーマでご報告を申し上げたいと思います。

遠州地域とここには書いてございますけれども、どちらかと言いますと、遠州地域全体を私は全部把握しているわけではございませんので、浜松地域のものづくり産業の現状、それから、中小企業支援につきましては浜松市の中小企業支援、それから三遠南信地域が広域連携で実施している現状の産業支援につきまして、ご報告を申し上げたいと思います。

最初に、この浜松地域の産業発展の系譜ということで、よくこういう図はお示しさせていただいているわけですが、浜松地域というよりも遠州地域全般の産業発展の系譜ということで、これは簡単に申し上げますと皆さんご承知のとおり、江戸時代から綿織物、それから製材、これが産業発展の一番の基盤になっておりまして、それが現在までこういう経緯を踏まえて、輸送用機器、それから機械、楽器、それから先の光産業というところも発展をしてくれているということでございます。遠州地域というのですか、特徴的なことはやはり常に、例えば楽器にしましても輸送用機器にしましても、ライバル企業が

常に競い合って成長・発展を遂げてきたということが一つの大きな特徴かなと。常にライバル企業があったということ。

それから、この発展の系譜を見ますと、常に途切れることのない技術革新という、最近の言葉で申し上げるとイノベーションということになると思うのですが、途切れることのないイノベーションが継続してきたというようなところが特徴ではないかと思っています。

次は遠州地域ですけれども、全体の、ここにお示ししてあるのが製造業の事業所数とか従業者数、それから製造品の出荷額等について、平成 24 年度の工業統計調査、あるいは 25 年度の速報値をもとにお示しをしております。この中でご注目いただきたいのは製造品の出荷額ということで、遠州地域の 8 市 1 町がごございます。累計で製造品出荷額の合計を足しますと、一番下でございまして、8 兆 2,049 億円ということで、右側の日本のそれぞれの市町村の順位づけからいくと、1 番は圧倒的に豊田市さんですけれども、14 位浜松市、21 位が磐田市さん、それから 23 位は湖西市さんというようなことで、遠州地域全体では 8 兆 2,000 億円。ちなみにここには書いてありませんけれども、日本の県別の製造品出荷額を見ますと、広島県が大体 8 兆 3,000 億円ぐらいでございまして、これは全国都道府県で第 10 位ということです。ですから、遠州地域合計をいたしますと広島県の製造品出荷額に匹敵するぐらいというところでございます。

それから、少し調べてみましたけれども、豊橋市さんが約 1 兆 1,000 億円、田原市さんが 1 兆 4,000 億円、それから新城市さんが 3,000 億円弱、それから飯田市さんも 3,000 億円弱ということで、恐らくこの全体を合計しますと 12 兆円ぐらい。三遠南信地域の製造品出荷額が約 12 兆円になるのではないかと、思うように思っています。これは全国の県別

の順位でいきますと、茨城県が第 8 位で 11 兆円でございますので、茨城県を抜いて、これが仮に一緒になるとすると全国第 8 位の規模ということで、日本の中でも大変に大きなシェアを持つ製造業の集積地だというように思っています。

そんな中で、非常に製造業はこれだけの大きな金額の出荷額がございしますが、ご承知のようにグローバル化ということで空洞化など、いろいろ問題を抱えております。遠州地域の企業の海外展開、これは昨今特に海外へ進出する企業が多いわけですね。1993 年から 20 年間の海外展開をしております累計、数でございます。中小企業が赤、大企業が青にグラフで示させていただきました。大企業については、数も限られておりますからほとんど変わりありませんけれども、中小企業が圧倒的に、バブルの崩壊以降、相当海外へ進出を始めました。その後やはりリーマンショック以降も増えているというような状況で、これは大企業が当然海外生産比率を年々、年々高めておりますので、当然中小企業もそこ一緒に海外に進出するというような流れがございまして。

しかしながら、最近では皆さんご承知のとおり、振興国、特に東南アジア、ASEAN の振興国の成長市場をどうやって取り組むかというようなことが大企業、中小企業含めて大きな課題でございまして。この成長市場に取り組むことが企業の課題だということで、コスト削減から市場の拡大、そこで現地生産というようなところが最近の特徴だと思っています。

特に平成 25 年度におきましては、中小企業の進出企業数が一挙に 38 社ほど 1 年間増加をしております。非常に顕著な実績を示しております。この中ですが、これは県の統計で見えておりますけれども、例えば浜松市の企業はどのくらいかという、このうち 136 社ぐらい。磐田市さんが 25 社、袋井市さんが 14 社、湖西市さんが 13 社というような数字だと伺

っております。これは県の統計ですので、実態はさらに多いのではないかなと思っております。

次は、これは今申し上げたようなことがここにちょっと書いてあるだけですけれども、やはり長期的に見ても海外生産比率というのが減ることはない。高くなることはあっても減ることはないだろう。それから、日本の人口減少社会。それから、生産年齢の減少というようなことになりますと、国内市場は当然のことながら縮小に向かっていく。避けられないということでございますので、やはり企業としましては新たな市場開拓に向けて海外市場の獲得ということを展開していくであろう。

それから、あわせて、国内においては新産業の創出ということと、それから既存産業の高付加価値化、ここは避けて通れない部分で、今後におきましては、製造業においては特に工場を含めてマザー機能の国内の存続ということが非常に重要であるということはいうまでもないと思います。

そんな中で実は浜松市が取り組んでおりますはままつ産業イノベーション構想がございまして、これは3年ほど前に経済環境とか社会環境の変化の中で今後どういう産業政策を進めていったらいいのかということで、行政とそれから経済界の皆さんと一緒につくった構想がございまして、今申し上げたようなこれからの成長市場新産業の創出というのが第1番で、特に浜松地域は成長6分野というのを、ここに書いてあります次世代輸送用機器産業とか健康医療・新農業・光電子産業・環境エネルギー産業・デジタルネットワークコンテンツ産業、これを新産業の6分野と位置づけて、事業化に向けた開発費の助成を実施しております。予算的には年間1億5,000万円ぐらいです。ここの事業化補助金を企業の皆さんに交付しているということです。

戦略の2はオープンイノベーションの推進ということ。オープンイノベーションはいろいろ定義がありますが、企業の皆様方、それから異業種、それから産学官連携等々、そういう皆様がいろいろな課題にみんな取り組んで課題を解決して、新たな産業の事業化につなげるという、イノベーションにつなげていくというようなことを積極的に支援しようというようなことで、医工連携とか光産業を活用したライフフォトニクスイノベーション、こういうことをやっております。

それから、企業力向上支援でございますが、これは中小企業に対する支援でございます。いかに行政としては経営資源の強化を支援するかというところで、大きくは先ほど申し上げたような形で、中小企業も海外進出が元気な中小企業については不可欠でございます。海外展開支援を積極的に実施しようということで、昨年から今年で2年目でございますけれども海外進出のいろいろな調査、それから見本市の出展の支援、それから、今年の4月は1年前から働きかけておりましたが、ジェトロ浜松貿易情報センターを浜松に誘致しまして、事務所が開設されました。今、企業の皆様、それから農業関係者の皆様も今後、農産物の輸出とか、そういうものについていろいろな情報提供をいただいたり、相談をさせていただいたりというようなところで活用をさせていただいております。

それから、人材育成事業とか研究会活動、これは新素材CFRPとかチタン、こういうものを企業の皆様にいろいろ技術を習得していただくというようなことで研究会活動を実施しています。

それから、知的財産というのが非常に重要でございます。これについてもコーディネーターを置いて推進をします。

それから、戦略の4でございますけれども企業立地支援ということで、浜松ものづくり特区ということで認定をいただいております。

これは今、浜松の新東名の浜松インターの近くに 50 ヘクタールぐらいの工業団地を整備するというようなことで進めているところでございます。企業立地についてはいろいろな補助制度を用意して積極的な誘致を行っている。

真ん中にごございます 3 本の矢とかというのがありますが、大きく新産業の創出、それから企業立地の支援、海外進出支援、本年度からさらにもう一つ、創業の支援ということでベンチャー企業を含めて創業者のご支援をさせていただこうというようなことを重点的にやっております。

こちらが大きく広域の連携ということで非常にちょっとわかりにくいですが、点線の丸とピンクの楕円形の丸というのを見ていただくと、ピンクの楕円形の丸は中段のちょっと下にごございます地域イノベーション戦略という、これは三遠南信というよりは浜松、東三河地域が連携している事業。これは国の公募事業に対して共同で申請をしている連携事業です。それから、縦に楕円形になっている点線のブルーの事業がございます。こちらが三遠南信の地域基本計画というのをつくりまして、それに基づいて広域的産業集積活性化補助事業ということで本年度まで実施をしている事業でございます。

そのこの事業の中身については、この中でちょっとご説明申し上げますと、今まで三遠南信地域を含めて取り組んできた事業がちょっと羅列をしておりますけれども、一番最初に知的クラスター創成事業というのがございます。これは実は浜松地域と東三河地域が平成 14 年から光電子を活用した新しい分野へ事業化をしていこうということで、文部科学省の事業として応募し取り組んできて、10 年間実施して、これは終わっております。

2 番目は、はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業ということで、これは J S T の事業として 10 年度の事業でやっております。

これは申しわけございません。浜松市だけでやっている事業です。

3 番目が浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションと片仮名がたくさん出てきますけれど、これは浜松地域と東三河地域が取り組んでいる、先ほどの事業でございます。これが今、続いている事業です。

それから、一番下に産業クラスター計画事業がございます。これは商工会議所を中心に平成 13 年から三遠南信地域が連携をしてやってきているということで、これもクラスター事業としては終了しておりますけれども、現在は一番下の広域的産業集積活性化補助事業ということで、これが三遠南信連携事業ということで取り組んでいる今、一番の事業でございます。

具体的にはなかなか説明すると長くなりますので、例えばライフフォトニクスイノベーションというのは経産省とか文科省、農水省の 3 省が連携して地域に公募をした事業で、これは産業界と金融機関の皆様、大学はもちろんですけれども行政がそれぞれ、愛知県と静岡県が浜松市と豊橋市ということで、主に四つの分野、健康・医療と光エネルギー産業とか新農業、次世代輸送用機器産業、この四つの分野について光技術を活用して新しい製品とか技術を開発して事業化につなげていこうと、こういうような事業です。

一番下の産業クラスター計画の広域的産業集積活性化補助事業ですけれども、こちらについては、これも行政と商工会議所、それからそれぞれ 3 地域の産業支援機関、例えば豊橋市さんですとサイエンスクリエイティブさん、それから飯田市さんですと南信州飯田産業支援センターです。それと浜松市ですとイノベーション推進機構というような産業支援機関もこの中には入って、行政としては 3 地域がそれぞれ入って、特に会議所がこれの事業については主体になって取り組んでおります。

クラスターということで輸送用機器産業の

プロジェクト、それから光電子産業のプロジェクト、健康医療のプロジェクト、航空宇宙産業のプロジェクト、新農業のプロジェクト等を実施しております、内容については、例えばトヨタとかホンダとかのビジネスマッチングを実施するとか、医療用機器の關係のマッチング事業を進めるとか、それから、いろいろ展示会を共同で行うとか、最近では一歩進んで共同受注組織の設置というようなところまで行っているところがございます。エアロスペース飯田さんとか、例えば「宙へ」という、これは宇宙航空、これは静岡県内ですけれども、あとは医工連携でも「HAMING (ハミング)」とかという、いろいろ組合・組織等をつくって一緒に製品化とか実施していこうというようなことも成果として出てきています。

それから、アジアナンバー1航空宇宙産業クラスター形成特区のエリアに、豊橋市さんは愛知県と従来からやっておりましたけれども、そこに飯田地域と浜松地域の市がこれに加わるというようなことも、この中の一つの成果かなと思っています。しかしながら、これは当初、国の経済産業省の支援事業で実施をしてきましたけれども、平成25年度をもって国の補助金がなくなりましたので、現在はそれぞれの自治体が負担金でこの事業、それから商工会議所さん、あるいは企業さんがご負担をいただいて、この事業を進めているというようなところでございます。

これはクラスターから生まれた一つの参考例として手術ナビゲーション装置とか、超軽量車いすの開発とか、検査装置とか、こういうのがいろいろ生まれております。

これはご参考にと思ひまして出させていただきましたけれども、遠州地域の8市1町で遠州広域行政推進会議というのをつくっております、ここでそれぞれの市長さん、町長さんが集まって会議をいろいろな分野で進めております。それから、連携をしていくため

のテーマを決めて、担当部局がそれぞれ研究会を始めておまして、今年度については産業政策と公共交通がテーマということで、検討テーマ案、これは研究会でそれぞれこの間、抽出をしたということで、①が地域企業への支援、もう一つが、2番が行政間の連携ということでございます。地域企業への支援については、人材育成とか企業活動の支援、販路開拓、情報発信、こういうことを連携で事業として何かできないだろうかということで、来年7月までにこの遠州地域の連携事業を詰めていくというのが、今、地域でスタートしたということです。

それから、これは浜松市の取り組みで、今後、人材育成とか販路開拓で何か今回のテーマに沿った中で広域連携に結びつく可能性のある事業かなということで出させていただきました。これについては説明を省略させていただきますが、一つのヒントにまたご興味いただければと思っております。

以上、簡単ではございますけれどもご報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



#### ■意見交換

コーディネーター／光産業創成大学院大学  
江田リエゾンセンター長

安形部長、ありがとうございました。

それでは、ただいまご報告をいただきまし

た話題に関しましてご質問がありましたら手を挙げてお願いします。ご質問がある方、挙手をお願いできますでしょうか。あとでまた意見交換の場というのを設けておりますので、次に進めさせていただきます。

では、意見交換に移らせていただきます。事前にアンケートという形でご意見をいただいて、事務局でこれを振り分けて発言していただくというようなことを考えております。

時間が実は限られておりまして、それぞれの発言をなるべく3分程度でお願いできればと思っておりますので、ご協力お願いします。コーディネーターのコメントではなく、皆様のご意見をなるべく多くいただきたく存じます。

テーマは三つありまして、そのうちのまず一つ目です。三遠南信地域で行われている新産業創出の取り組み、あるいは既存産業に活力を与える取り組み、または交通基盤の整備が地域の産業にどんな効果があるかということに関して把握したいと思っております。

では、まずご意見をよろしくお願いします。

初めに田原市の商工会会長の河合様、お願いできますでしょうか。

#### **田原市商工会 河合会長**

昨年も飯田の方の会議で少し触れさせていただいたのですがけれども、東三河の広域経済連合会という組織の中で三つの重点事業というのがございまして、そのうちの一つであります自動車産業のブランディング化ということを担当させていただいております。

ご存じの方は多いと思っておりますけれども、東三河の地域というのは自動車産業の大変集積された地域でございます。日本の中心地帯にある三河港というのが実は21年間連続で輸入自動車の日本一の港でございます。それから、国産車の輸出でございますけれども、トヨタの田原工場、それから湖西のスズキ自動車さん、それから蒲郡の方から三菱自動車の

輸出ということで、こちらが現在は名古屋港に次いで全国で第2番目の出荷額を記録させていただいております。

そんなわけで、輸入自動車関係は修理とかメンテの関係の中心の産業が集積されているということと、それから生産に関しましては、トヨタの田原工場はレクサスの最高級車ランクル等がございまして、トヨタ自動車等におかれましても先端の工場ということでございます。

そうした自動車産業の集積というのがずっとされているわけですがけれども、いかんせん、知る人ぞ知ると言いますか、それから、港の自動車中心の港であること自体も知っている方は知っているのですがけれども、いろいろなところで尋ねてみますとなかなかブランディング化されていないということで、三河港の自動車産業の集積というものをどういう形でブランディング化していくかというのが私どもの委員会の務めでございます。ちょうどこれで2年目になりますけれども、ようやく、まだ段階的には第1段階、10%、第1段階でしかないのですがけれども、この11月24日に三河港の自動車産業の観光ツアーということで、まず第1段階は中部地区を中心とした産業観光、自動車を切り口とした産業観光ツアーを企画させていただきました。

この中で大きな特徴としては、先ほどお話しさせていただきましたトヨタの田原工場の組み立てラインの見学と、それから輸入自動車の、先日、新聞でも発表されましたけれども、メルセデスベンツがデリバリーセンターを開設しまして、その第1号の方が車の受け取りに来られたという記事があったと思いますが、国産の製造工場、それからメルセデスベンツのデリバリーセンターの見学というのを、多分ここでしかできないことだと思いますので、今回第1弾として、それに地域の飲食を兼ねたツアーというのを日帰りですが開催させていただきます。

まだ、先ほど言いました第1段階ということで、この産業観光ツアーにつきましては将来というか最終的な目標につきましてはインバウンド、東南アジアを含めた各国からこの自動車産業という切り口で産業観光のブランド化ができれば、この1地域の既存の自動車産業の活性化に対して大きな影響が与えられるのではないかなということ、そうした事業をただいま進めさせていただいております。

**コーディネーター／光産業創成大学院大学  
江田リエゾンセンター長**

ありがとうございます。続きまして、御前崎商工会の阿形様お願いします。

**御前崎市商工会 阿形会長**

御前崎商工会の阿形でございます。皆さん、ご存じのように御前崎市というのは地図を見ていただければよくわかるように、北には富士山を臨み、東側は駿河湾、南側は太平洋と本当に角度でいえば30度ぐらいの間しかない。皆さんのところはいいところは丸々商圏になるようなところ。海側のところも180度は海でもあとの残りの180度は陸地でございます。我々のところはそうはいきません。左右南北も海ですので、恐らく長野のところと違って、恐らく商圏になるところは4分の1ぐらいと考えられます。

そういう中で、やはり原子力発電所に頼っていた関係で新しい産業も生まれてこないような、ずるくしていたような気がいたします。そういう中でやはり地域産業を集積していくためには、やはり今から頑張っていかなければならない時代ではないかなと。やはり今言ったように、面積的にも、地域的にも4分の1ぐらいですので、人を集めても4分の1からしか募集はできない。産業も同じです。商業圏も同じです。そんなことでなかなか、4分の1あればいいのですけれど、極端に言えば、もっと少ないのではないかなと思われま

す。そういう中で産業の集積を本当にして、やはり遅れているものを取り戻して、これからのものに生かしていかなければならないのではないかなと。ここで皆様方のご意見をお聞きして、勉強して、なるべく早い時期にそういうものが育っていくように努力をしていきたいなど、御前崎市としては考えておりますので、またよろしくこれからもお願いしたいと思っております。

**コーディネーター／光産業創成大学院大学  
江田リエゾンセンター長**

ありがとうございます。

では、続きまして南信州ここだにの木下様お願いします。

**一般社団法人南信州ここだに  
木下代表理事**

実は「技」というよりは、ここにいる経過を少し話させてもらいながら、これからの取り組みに関してお話をさせてもらいたいと思います。

実は住民ネットワーク協議会が24年につくられました。3県で住民ネットワーク協議会をつくりましょうということで作り、入ったわけです。もうその時には何かお互いが物をネットワークで売れないかという話もございまして、その中で物流、それから人との交流、先ほど前段のところでは話がありましたが、いずれにしても全国の中でも中山間地が多いこの地域においては、これからどんどん、そういった集落が消えていくという現況があるわけなので、その中で住民は何ができるのだろうかというところで、今、中山間地の例えば地域の振興だとか、そういうことで住民ネットワーク協議会として最小限だけでもできることはないかということで、今取り組んでおります。

南信州「ここだに」が生まれたのは、実は今、それこそ部長さんから話がありましたけ



れど、多分 24 年ごろだったと思うのですけれど、クラスターの中で社団法人、補助金をいただく制度があったので、皆で住民ネットワーク協議会を立ち上げる同時期に制度に応募させていただきまして、社団法人を立ち上げて今に至っております。

今やっていることは、例えばジュビロとの交流だったり、それからスポーツ交流だったり、あとは街道だとか、そういうものをテーマにした住民のネットワークをつくること。あとは地産地消とよく言いますが、地産地消はもう自分のところで自分のものを消費するという時代ではないだろうということで、お互いが助け合って消費をするということで互産互消ということで、地産外消というか、外へ行って物を売るのではなくて、お互いが助け合うというイメージのものを、お互いアンテナショップをつくりましょうということで、実は私も直売所を、飯田市の管理されていたアザレアの指定管理を受けまして、今ここでも運営させていただいております。現在は遠州の「遠江特選市場」、私のところ、それから今、三河地方においては「もっくる新城」の中に何かそういった新しい道の駅に展開できないかということで、今それこそ新城の議会にお願いして、一応そういうスペースをつくってもいいよというところまで話はできていて、あとはどういう形で運営しようかということは今、模索してやっていきたいと思っております。

そんな活動をしながら、今、実は私たちも浜松の軽トラ市とか、それから、当然遠州の方の道の駅とか、そういうところに毎週 1 回、商品を持ち込みながら、逆に 0 メートルから 700 メートルぐらいの地帯なので、夏場は南信州のものを、それから冬場はそれこそ浜松・東三河の野菜を持って、実は活動しております。これもそんなに収益が上がるわけでもないのですけれども、実際にこれからどういう活動ができるのかとか、それが物流としてビジ

ネスになるのかというところの中では、先ほど来からありますけれども、雇用だとか、それから地域振興をどうやって図っていくのか、というところの中で、地域だけでなく、これは行政、それから経済、それから民間の我々が最低限でもそここのところだけはつないでいきたいという思いで、今、やっているところ

です。いずれにしても、いろいろなところこういった形のを、地域振興の何ができるかということをお願いしながら、今日は行政と経済界の方が非常に多いので、中山間地の本当にいわゆる苦しさなんかもぜひわかっていただいて、農業、それからもちろん恵まれた工業の場所もありますけれども、実はそういった中山間地も忘れないで、ぜひ一緒になって地域づくりができたならありがたいなと思っています。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

ありがとうございました。続いて奥三河自然と歴史にふれあう会代表の加藤様お願いします。

#### 奥三河自然と歴史にふれあう会 加藤代表

愛知県の北東部、俗に言う中山間地、設楽町からやってきました。そして私たちの会は今から 16 年前の平成 10 年に田峯小学校存続活動を機会に結成されました。会の趣旨は、地域の人が主役、地域の自立を目指すことを目的としています。そのためにほとんど表面に出ないというのが私たちの会です。表面に出るというのは、やはりその地域の人たち、そういった人たちが表面に出るということで活動しています。

先ほど安形さんの解説を聞きまして、浜松市と設楽町では規模が全然違うという感覚を受けました。しかし、こういった中山間地の小規模な地域が全国的に多くを占めているこ

とを理解してもらいたいと思います。

そして、私たちの活動内容は、結成されて16年しかたっていないのですが、主なものを4点ほど挙げてみます。一つは田峯小学校の児童数を増やすための活動。これは廃校寸前の学校で、全校生徒が10名のところを、我々がPTAと活動して20名までに盛り返したというのがあります。しかし倍とはいえ、わずか10人しか増えていないというところです。残念ながら、現在はまだどんどんと減りつつあるため、これを解消していかなければならないところです。

2番目は地域を知るためには自分たちの足元から見直す必要があります。当然自然・歴史・文化等の情報です。意外と知られていないもので、私自身余り知らなかったのですが、これを16年かけて全ての動植物、歴史、文化をデータ化しました。道端の石ころから、何千種とある動植物まで、全て電子化してまとめました。

あと、三つ目が地域の希少種の保全や保護をやっております。いろいろな開発がありまして、それとやはり地域を知っているという強みを生かします。どこに何があるかというのを全て把握しています。開発がある場合は安全にそのものを移植とか移転をして保護活動に取り組んでいます。

四つ目が地域の小中学校で出前講座というのを16年間やっています。また、いろいろな植林活動もやっています。例えば小中学校へ行って地元の探鳥会を開いたり、学校へ行き読み聞かせをしたり、あと、いろいろな学校を対象に自然観察、地域の自然・歴史、そういったものの講演・講座を開いています。

中でも植林活動についてはいろいろなことがあって、大学の先生からいろいろアドバイスがあり、決して外から持ち込まないようにしてほしいという条件があり、地域の自然のものを植林しています。

最近の活動として、地域資源の活用という

ことに取り組んでいます。これは観光で取り組む活動で、役場の観光課と連携し各種のイベントの応援やボランティアガイドを盛んに行っています。10月はイベントの多い月で、私も会社員なのですが、会社に出られたのは2日だけでした。あとは全てこういったことと呼ばれています。

もう一つ近くにすぐれた産業があります。東栄町の三信鋳工です。これは小さいながらも大変世界的に有名になっています。また、設楽町の関谷醸造さんですね。これも地域資源の水を生かしてたいへんな躍進を遂げています。こういったことで地域資源を活用した産業の取り組みを参考にして、またいろいろと教えてもらっています。

指導されながら地域の商工会と連携して、今、ちょっと別なこともやっています。奥三河地域には多くのカエデの種類がたくさんあります。そのカエデを利用して樹液の加工品の開発、そして煮詰めてシロップにして活用、これに取り組んでいます。ちなみに、カナダから輸入するシロップは日本が一番多いのです。日本でもかなり上質のシロップが生産できるということで注目をして、現在やっているわけですが、これには大変苦戦をしています。しかし、苦戦をすればするほど、いいもの、またやりがいというのが見えてまいります。以上ですよろしくお願ひいたします。

## コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

ありがとうございました。続いて湖西市の三上市長お願ひいたします。

## 湖西市 三上市長

先ほど製造品出荷額を聞いていたのですが、全国22位とこの前聞いていたのが23位になっていたのも、ちょっとひょっとしたら最近の数字でどこかに抜かれたのかと思いますが、1兆6,000億円とか1兆7,000億円ぐらいの

製造品出荷額を持っている湖西市でございます。ところが全国的には豊田佐吉と豊田喜一郎が生まれた町という、「ええ、豊田市じゃなかったの」とか「名古屋市じゃなかったの」と言われるのが大変残念な町でございます。

私ども、余り自慢できるほどのものではありませんが、まず産業活性化という点では全ての会社を救うことは私どもにはできません。自由競争だから。やる気があって、海外に進出しようぐらいの気持ちがあるところを支援するのだと言っていて、金利を支援いたします。海外へ進出しようという会社にも金利支援をいたします。最初はうちへ工場をつくってくれるという、当市に進出してくれるところに支援をしましょうという金利の支援だったのですが、それにとどまらず海外に生き残るために進出するのですね。ですから、これも支援しようという形を行っております。

もう一つはビジネスマッチングのコーディネーターを平成23年に1人つくりまして、その人件費を持っているという形を行っております。評判がいいものですから、もう1名増加させました。1年間で280社も訪問してくれるのです。ということは毎日1社ぐらい、250日働くとしたら、毎日1社以上訪問しているというぐらいに足しげくいろいろな会社を訪問してコーディネートを努めることによって活性化をしようという、大変評判がいいものですから2名に増やしたというのが25年、1年前のことでございます。

そして、産業の展示会を開こうというのが25年に開き、今年12月に2回目を開くという形で発展をいたしております。

次は、二つ目の柱は人材の育成なのですが、これは結構、湖西市はひょっとすると皆様方のところよりも一歩先んじているのかなと思ったのは、まず、小学生から活性化をしなければいけないというので、少年少女発明クラブというのに力を入れております。例えば長

野県ですと、少年少女発明クラブは5市だけです。この三遠南信では飯田市だけしかありません。静岡県は湖西、浜松、三島の三つしかないのです。愛知県は22市あるのです。大変多いのです。これはやはりトヨタ系が多いということと、長いこと豊田章一郎さんが全国の少年少女発明クラブの会長をしていたというのがあるのかなと思います。でも、三遠南信の東三河に絞りますと、蒲郡、田原、豊川、豊橋しかないのです。うちは毎年約50～60人の小学校の生徒がいろいろな活動をしております。

そして、高等学校になりますと、職業訓練センターがありますので、それを利用して二つの高校にフォークリフトの実習その他を行っております、たしかこの3年間、湖西高校と新居高校、二つの高校は全員が就職または進学をしているという形になっております。

そして、高等学校、大学生向けに豊田佐吉記念奨学金というのがありまして、これは月々数万円ですが、これは返さなくてもよいという、上げるという形の奨学金があります。毎年5～6人の方を追加して支援をいたしております。

それから、もう一つは新居町の時代から連続しているのですが、経済的に恵まれていない人に月々5万円、これは貸しますという、大学生を支援する、無利子で貸しますという制度がございます。

それから、静岡大学さんをついこの間、協定を改めて結んだのですが、いろいろな有名人も招きますが、若手の研究者でもいいのですが、招いて、いろいろな方に講演をしてもらい、一流の人たちと接する機会を持つということをしています。これは学生さんから一般まで含めて聴いてもらっております。

例えば、ついこの間お亡くなりになった北沢宏一先生、超伝導の世界的権威でノーベル賞候補にもなったと思いますが、3年前の湖

西市に招いて講演をしていただいております。

それから、地域デビューというので、外に出て行って湖西に戻って来てくださいというので、66歳対象に、66歳でもう1回同窓会をやっつてねと、こんなものも行ってあります。

そんな形で小学生から人材育成に努めている湖西市でございます。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

ありがとうございました。続いて豊橋商工会議所の吉川会頭をお願いします。

#### 豊橋商工会議所 吉川会頭

昨年もお話させていただきましたけれども、東三河全体の商工会議所商工会で東三河広域経済連合会を設立いたしましたして、現在いろいろな取り組みをしているところでございます。産業振興のプロジェクトの中で先ほど田原市商工会の河合会長からお話のありました自動車産業ブランディング化のプロジェクトもその一つであります。

もう一つが、健康な地域社会創造プロジェクトということで、こちらは蒲郡商工会議所の小池会頭に担当していただいております。蒲郡市には先進的な医療分野の企業がありますので、先端医療の皆さん方といろいろと手を携えて、健康な長寿社会を全うするためにはどうしたらいいかということが本プロジェクトのスタートでございます。先日も10月9日から13日までの5日間にわたり「健康『Desing』の探求の旅」というヘルスケアツアーリズムの商品を企画させていただいて、皆さん方にご披露していただいたところでございます。蒲郡市にはラグーナ蒲郡がございませぬので、その中で健康と観光ということと、交流人口の増加を目指していろいろと取り組んでいるところでございます。

3点目は、三上市長さんからも人材の育成についてお話がございましたけれども、我々

も域内企業の従業員の皆様方を中心に人材を育成していこうということで、技科大や愛知大学、創造大学といった地元の大学などと連携してセミナーを開催しております。いろいろな講座を設けて地域に役立って、地域で卒業した学生を地域で雇っていただけるような仕組みづくりを、今進めているところであります。

それから、もう1点、これはまだ計画段階でございますけれども、私どもの愛知県豊橋市から長野県の飯田まで飯田線が走っております。この飯田線を活用して産業の振興、そして観光の振興、二つをこれから具体的にしていこうということで、今、東三河広域経済連合会内の産業政策企画会議におきまして、今後の事業計画を検討しているところでございます。この計画が具体的になりましたら、皆さん方にご披露させていただきたいと思っております。

それから、「ものづくり博」と「いいもの・うまいものフェア」のチラシを皆さん方のお手元にお配りさせていただいていると思っておりますけれども、こちらは10月31日、11月1日に豊橋の総合体育館で開催させていただきます。過去には豊田章一郎さんも記念講演にお出でいただいたこともございます。

こちらは、豊橋商工会議所の松井副会頭が担当責任者として、いろいろと組み立てをしているところでございます。この中には遠州の皆様方、そして、南信州の皆様方にもご出展、ご協力いただいておりますので、お礼をする一方で、皆様方には当日お越しいたきまして、三遠南信地域の産業の交流、新たなビジネスのきっかけとしていただければ幸いですので、よろしくお願い申し上げます。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

その他何かございますでしょうか。

### 奥三河自然と歴史にふれあう会 加藤会長

実は設楽町には愛知県唯一の原生林があります。太古から人が入っていない森です。あと豊川の源流があり、豊川は設楽町から始まっているということです。設楽町内では子供たちが普通にその自然の川で泳いだりして遊んでいます。

今、設楽町内に私たちの田峯区があり、私たちの地区と蒲郡市と交流活動を 20 年ほどやっています。毎年 50 人がやって来るのですが、かなりイメージは好感度で、倍率がざっと 10 倍です。募集すると 500 人が集まるのですが、募集人数は 50 人ということです。このような地域ですのでよろしくお願いします。

### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

それでは、地域産業が持続的に発展するためには、それを支える専門的人材、創造性豊かな人材の育成・確保が必要だと思いますが、そのときの課題と解決策についてご意見をお聞かせください。

### 奥三河自然と歴史にふれあう会 加藤代表

人材の育成確保を 4 点挙げてみます。一つ目は地元のことを知らない人が多いために地元のよさが今、わからなくなっているのが現実となっています。特に役場等の関係職員の方は余り知らないようで、この人たちにうまく教育をしていただきたい。役場の職員さんたちはなかなか優秀な人が多く、地域のリーダーとなり得る人が大勢いますので、ぜひ地元のことを知っていただきたいと思っています。

二つ目が現在活動している中で公共施設管理協会という部会や、役場の観光課、こういったところと連携をしてボランティアガイドの育成をやっています。去年から始まり、ボランティアガイド養成講座を開いて、2 年を通して講座をやっています。こうしたことで

地域の話をする機会を増やし、特に若い人との話し合いの場を設けることで、非常にいい取組かと思っています。

三つ目が、少し言いにくいのですが補助金です。イベントもよいのですが、補助金に頼るというのはどうかと思っています。補助金が切れても続いていけるような取り組みであるのならいいのですが、補助金が切れたら続かないというのは何の解決にもならないと思っています。地域が潤って自立していくようなことにつなげたいと思っています。

四つ目が、できるだけ若い人の話を聞くというのが大事だと思います。どちらかというと、我々の地域は高齢化が進み、高齢者がいろいろなことをやっているのですが、高齢者が中心ですと、若い人たちはどんどんと都会へ出てしまいます。もっと若い人たちの意見、それと話をどんどん取り入れて、若い人たちが住みやすい、居心地のいいところをつくらないといけないなと思います。これからこうした取り組みもしたいなと思っています。私も 61 歳になり、高齢の人たちに若い人の意見を聞くようにとということをちょっと言えるようになりましたので、これからそうしたことに取り組んでいきたいと思っています。

### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

続きましてここだにの木下さんお願いします。

### 一般社団法人南信州ここだに 木下代表理事

今、加藤さんの話に尽きるのですけれど、立場が多分かなり近い活動をしているからそう思えるのだと思います。それについてはダブるのを避けたいと思いますので、自分なりに考えている人材育成というところの中では、これはお金ではないだろうと。でもやはり地域が疲弊していく大きな理由というのは、や

はりネットワークというか、要するにコミュニティが崩れていて、それをどうやって、その中で動くお金があれば別段いいわけで、その中で生活できるようなスタイルをみんなが持ち合わせる事が重要なと思います。

先ほど来、飯田も3,000億円ではかのところが1兆円という話なので、要するに経済活動が飯田市は3,000億円とちょっとお話を聞いたので、そうすると、今ここにいらっしゃる湖西市は1兆何千億円、田原ですと1兆何千億円、その違いの中で同じ生活者がいるというのをやはり逆にそういう人たちにもぜひ知ってもらいたいです。地域のそういう人たちがいて、また地域が形成できて、国土が形成できるのだと。先ほど、今、加藤さんからお話がありましたけれど、でもやはり豊川流域の自然は我々が守るのだという意味です。やはりそういう上流の人たちの思いというのを、海辺の人たちにもぜひ知ってもらいたいですし、その反対もあります。

その中で生活スタイルというのは多分一律ではないと思うし、それは重要なことだと思うので、そこに生きる人たちが自信を持ってそこで生きるというメッセージを送らない限り、多分地域は持続しないと思います。そのために何ができるかという、そんなにお金のかかることではないですね。1兆円も2兆円もかかるわけではないし、1億円なのか、1,000万円なのか、100万円なのか。それでも生きていくのだというメッセージを送れる人たちが何人その地域にいるかということが、やはり一番大切なのかなといつも思います。ですから、逆に言うと、身の丈に合った生活をそこでしていくという重要性というのを、やはりお金をもうけるから外へ出るという話ではなくて、ぜひ行政なりもやはりそういう教育をしていってもらいたいと、そういう感じがします。

## コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

続きまして、浅羽町商工会の大石会長お願いします。

### 浅羽町商工会 大石会長

専門的人材、創造性豊かな人材の育成・確保等につきましてですが、私どもの商工会では当地区に進出された企業と、もともと地元で育った企業との交流を図ることを目的にしまして、平成元年に商工会が事務局を担当いたしましたのでできました団体、浅羽企業交流会というものが設立されております。この団体内では、担当者同士のかかなり緊密な交流が行われておりまして、一部には技術指導とか受・発注が行われていると聞いております。

しかしながら、それらは浅羽企業交流会内部だけのことであり、小規模事業者が多数を占めます商工会員に及んではおりません。そこで、3年ほど前から各商工会でも行われておりますが、静岡県商工会連合会によりまして専門家派遣制度を大いに活用させていただいております。最近では、地元信用金庫さんとの連携も図られまして、信用金庫さんの紹介による案件では企業が負担します派遣費用の一部を信金さんがご負担いただける場合もあるとのことであります。また、本席におられますが、湖西市の三上市長様のおひざ元の湖西商工会はこの点におきまして静岡県ナンバーワンの実績とお伺いいたしております。

湖西市商工会は早くから地元企業を退職した技術者等のOB集団、企業組合、浜名湖エルダークラブを組織されまして、県内外の企業コンサルをされているとのことであります。先ほど申しました浅羽企業交流会所属企業のOBからは、こうしたOB集団設立のお話があるわけではありますが、まだ残念ながら実現には至っておりません。中小零細な事業所でありましては自社で専門的な人材などを育てることは大変難しい状況にありますものです。

から、こうした専門家派遣制度や企業OBのコンサルタント集団の設立は大変有意義であると思いますし、小規模事業者、私ども商工会員にとりまして大変効果的な役割を果たしていただけるものだと思います。

こうしたことから、専門家派遣制度におきましては国からの予算の獲得を、それから、OB集団の設立につきましては設立に向けての研修、またサポートをぜひ実施していただければと考えております。

それから、経営とか技術の革新には大学との連携が必要でありまして、また効果的であると考えます。私ども袋井市では静岡理工科大学との連携を図るため袋井市産学官連携推進協議会が設置されておりますが、大学側からは大学の敷居が高く感じて相談しにくいと思われているかものお話もありました。中小の事業者にとりましてはなかなか気軽に相談できる状況にないかもしれません。また、相談内容によりましては、どこの大学に相談すればよいのかもわからない場合もあるかと思われまますので、広域で組織するこの三遠南信推進会議に気軽に相談ができて、大学とのジョイント、橋渡しと言いますか、そのようなものを送っていただけるようなSENA 総合相談窓口をぜひ設置していただければ大変ありがたいと思っております。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

続きまして、磐田商工会議所の高木会頭をお願いします。

#### 磐田商工会議所 高木会頭

磐田市は工業の町でありますので、人材育成といいましても、いわゆる産業人の育成あるいは経営者の育成ということになるかと思っております。磐田のまちの産業の歴史を申し上げますと、かつては木材、お茶という、いわゆる天竜川に筏を組んで木材を流してき

た。そして、天竜市で揚げる、今、浜松市天竜ですね。あるいは掛塚で揚げるというような木材の時代がありましたけれども、その後が繊維の時代になりまして、別珍、コールテンを中心とした繊維関係でありますけれども、かつては全国の90%強を確保していた。そういうシェアを持っていたという時代がありましたけれども、これはもう昭和40年の終わりから50年の初めに中古織機が海外に輸出することによって、繊維は完全に海外に移ってしまったというのが状況だろうと思っております。その後、輸送関連に変わりました。自動車関連、自動二輪の関係でありますけれども、ヤマハ発動機の本社が磐田市にありますし、またスズキ自動車、トヨタ自動車の下請けというような形で、同じ工業のまちでありますけれどもほとんどがそういう大手企業の下請けの街であります。

それが当然のことながら、大手企業が外国企業との競合が激しくなるにつれて、収益をあげる為にも過去にとらわれず、下請けの、いわゆる垂直分業の時代から水平分業に変わり始めました。我々は、下請けの企業の皆さんにいろいろな形で、私も金融機関に勤める人間でありますから、取引先を含めていろいろなところで話をしてきたのでありますけれども、いわゆる生産効率を高める、技術力を高める、その努力をしないと仕事がなくなりますよということを言い続けてきたのですが、当時は受注量も有り、そういう事が理解されませんでした。最近の状況を申し上げますと、有効求人倍率がこの8月でも、未だ1倍に達していないという状況であります。昨年12月が0.84倍、そして1月が0.9倍にまで上がりましたが、その後0.75倍まで低下しました。そして、やっと今、8月が0.86倍に上がってきたところです。

先ほど三上市長さんから話がありましたけれども、磐田市は製造品出荷額につきましても1兆7,000億円を超しておりますけれど

も、かつてはというよりも平成 24 年には県下で 2 番目、浜松市に次いで 2 番目でありましたけれども、25 年は 3 番目に下がっております。これは静岡市に抜かれているわけでもあります。多分そういうことで湖西市もランクダウンしていると思います。磐田市が 1 兆 7,227 億 9,200 万円ですから、湖西市は大体そのすぐ下ぐらいではないかと思えますけれども、いずれにしても、これはいわゆる水平分業を十分自覚し意識して働いていればこういうことはなかったと思います。掛川市が 1.17 倍、浜松市が 1.14 倍だと思いましたが、そういう中で 0.86 倍という数字はいかに工業、その環境が停滞しているかを示している様に思います。

その理由は大手企業が生産拠点を海外へ移しております。スズキ自動車につきましても 3 分の 1 は国内でつくるけれども、3 分の 2 は海外ですね。そして、磐田に本社があるヤマハ発動機では前年の決算が 1 兆 4,100 億円程度だったと思いましたが、国内で売っている金額はその 10 分の 1 だということですから、当然その下請けには仕事が減ってきているということでもありますし、もう一つの理由は津波の問題。どうしても沿岸の下請けには仕事が出にくくなっているという状況。そういうようなこともありまして、大変厳しい状況が続いているというのが現状であります。

ですから、これをどういう形で直すのか。大手企業に海外までついて行くという一つのやり方があります。特に最近では東南アジアへの進出企業が多くなってきてはいますが、経営上の問題もあり、なかなかそうはいかないのが多くの企業のおもいだろうと思っております。

商工会議所としては「産業振興フェア」を過去 3 回開催しております。今年が 4 回目になります。11 月 12 日でありますけれども、かつては 40 社から 50 社程度の出展でありま

したけれども、今年 103 社になりました。そのうち大手企業、スズキ、ヤマハ発動機、浜松ホトニクス、ブリジストン、NTN、高砂香料工業、天龍製鋸というような大手企業の出展により、地元中小企業との連携に期待が持てます。大手企業との連携の実例を少し申し上げますと、大手企業の浜松ホトニクスさんのレーザー光線を使って金属に焼を入れるという例です。金属を焼くというのは、金属を堅くするため、強くするためには全体を焼いていたのですけれども、ホトニクスさんのレーザー光線を使って、ベアリングが載る部分だけをピンポイントで焼くという方法を中小企業が開発いたしました。こういう形で大手企業の技術を中小零細企業が必要とする。あるいは、逆に中小零細企業が大手企業といろいろな形で取り組むことができるということであろうかと思ひまして、実は産業振興フェアの出展を前年度の倍にして、今進めているところであります。

そういう中でもう一つは、いわゆる新産業の創出の問題でありまして、これにつきましては以前から磐田では「磐田新産業創出協議会」を 2011 年の 10 月に発足しており、現在では 60 団体ほどになっております。先日も本年度の新産業の創出協議会を開きましたけれども、50 社ほど出席しております。また、別に 3D プリンターの研究会も開催しました。これにつきましても、40 社ほど出席して熱心に討論しております。これからはいろいろな形で産業というのは生まれてくるだろうと思ひます。そして、大手企業だけでなく中小企業も自分たちでもつくることのできる、そういう時代だろうと思ひますので、我々が支援していくことがこれから一番大事だろうと思ひています。

これは会議所とそれから私どもの金融機関と一緒にやっているとありますが、ビジネスコンテストをもう 13 年続けております。応募が 880 件を超しております。



最優秀には100万円を報奨金として贈呈しておりますけれども、すでに事業を起こしている企業も何社かあります。

もう一つは大手企業が持っている特許で死蔵しているものが沢山ありますが、これを開放してもらえないか、ということです。大企業では使えないが中小企業ならば使えるものがあるはずです。今、私どものところは富士通さんと一緒になって研究しております。

これを地元の企業の、ヤマハ発動機さんやヤマハさんにもお願いしているところです。そういうことを含めて現在、人材育成というよりも、こういう企業家を育成するという動きの中で進めているというのが現状であります。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

三上湖西市長 お願いします。

#### 湖西市 三上市長

さっき二つのテーマでしゃべってしまいましたが、予定していたのは終わったのですが、実は話を聞いていて、浅羽商工会の方からエルダークラブは湖西市のほうが進んでいるというお褒めの言葉をいただきましてありがとうございます。

実は毎年8月に豊田佐吉奨学金をもらっている学生さんたちと昼飯を食べるのですが、豊田章一郎名誉会長と豊田章男社長が学生さんと私を交えて昼飯を一緒に食ってくれるのですね。こんな円卓で。そのときに、去年、「皆さん方は海外留学したいですか」ということを豊田章男社長がいちいち語りかけたのです。「手を挙げてください」と言ったら、奨学金をもらっているそこそこの人にもかかわらず、半分ぐらいしか手が挙がらないのですね。「これから世界にどんどん出ていってくださいね」と章男さんはおっしゃったのです。

そのことで今、うちは海外に留学する人に

対する奨学金制度がないので、それをきちんとつくろうということ、今、検討中でございます。やはり人材の育成という点、日本全体の留学生が、海外に出ていく人が減っているというのは、もう製造業はどう考えても世界がマーケットですから、英語ぐらいできなければビジネスができないような時代に間もなくなると僕は言っているわけですが、コミュニケーションの道具として、インターネットも英語で行うわけです。全世界の情報が入ってきます。そういう意味では、留学をしてほしいという制度をつくりたいなということも今、思っている次第で、つけ加えさせていただきます。ありがとうございました。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

人材の育成・確保を目指した取り組みが既にいくつもされています。ただし、より広域的・分野横断的に情報収集・発信をしていく仕組みづくりが急務となっている、ということだと思います。

それでは、三遠南信地域の競争力を高めるために今後SENA構成員および関連組織が広域的に連携して取り組むべき事業は何であるかご意見をお聞かせください。

それでは、菊川市商工会 鈴木会長お願いします。

#### 菊川市商工会 鈴木会長

三遠南信地域の競争力、これを私は思うのですが、先ほどのいろいろな方のお話を聞いていても世界は自由経済だと。資本主義経済の自由経済だと。いろいろなところで海外へ進出するところもあるし、行政でも支援しているところもある。でも、支援してやらなかったら中小零細企業が生き延びていけないということに対しては、私もよく理解できるのです。先ほどから皆さんの意見が出るように、日本の今の出荷額は、製造出荷額

が県下でも非常に減っていると。

ただ、今のとらえた何兆円を見れば何かすばらしく思うのですけれど、下がりかたがひどいのだということは、皆さんはもちろん承知だと思います。これも今の世界が自由主義経済だからしょうがないと言えば、それで私もある程度は我慢ができるのですけれど、では、こういった今の厳しい世界情勢の中で三遠南信がこれからどうやって競争力を強めていくかということに対して、これは私の今ここで聞いていて思いつきなのですけれど、やはり三つの地域がお互いに地域を活用して、鎖国ではないですけれど、今までの貿易と同じように私たちの海岸沿いのないものを自然豊かな長野県の方からたくさん買う。例えばリンゴの美味しいものがあつたらたくさん買う。三河のすばらしい観光的なものがあれば、そちらへ皆さんで行く。そうやって、せめて私たちは井の中の蛙の中で経済を回してもたかが知れていますが、三つのところをうまく経済の発展の拠点としてやる。この3地区が交通の便もよくなれば、すばらしい三つの連携がとれるのではないかなと思いました。

とにかく今の経済は、行政の方、いろいろな方ともお話をしますが、私も中小零細企業の創業者で社長をやっておりまして、息子らにある程度任しておりますが、それでももう五十何年やっているのですけれど、昔と今は経済が非常に違っていると。行政の方は、割と新聞を見ていても、アベノミクスで地方がよくなってきたではないですかなんて言う。冗談ではないですよ。とにかく今の日本の経済はどんどん悪くなっているということで、アベノミクスの地方創生のことも私はこの前、県知事の前で言わせてもらいました。やはりこれから地方を元気づけていくためには、自由経済の厳しい空洞化していく日本の現状を知り、地方の中小零細企業、商店が生き延びていく方法を考え、地域がまとまって何か競争力をつけていかないといけない、というよ

うな考えを今、皆さんのお話を聞いていて、自分の考え方も同じだと思って聞かせていただきました。

この三遠南信というのは三河のいいところ、景観のいいところ、長野県の空気のきれいなところ、それと静岡県の遠州の浜松は昔から技術の立国だといってオートバイから楽器メーカーがありものづくりのところなどいいところがある。せっかくこの地域にある工業試験場を、ぜひ生かしてもらいたいという思いがあるのと一緒に、昔から支えた遠州のこの地区を三遠南信3地区が一緒になって、ぜひ復活してもらえればなと考えております。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

ありがとうございました。続きまして新城市商工会の本多会長お願いします。

#### 新城市商工会 本多会長

ものづくりの製造業の立場でしか物が見えないので申しわけないのですけれど、昨年の資料で「ヒト・モノ・カネが集まる魅力的な新産業を積極的に生み出していく必要性がある」。「技」の部会でこういう結論が出た。また、「経済・社会・環境などの状況が急速に変化している中で新産業の創出に向けた集積化と連携した展開を具体的に進めていくべきである」と。なのに、内容がちょっと今回違うのかなと。僕も技の分野か、何の分野だったのかなと思いましたけれど。

実は、新城市、東三河、特に私が言っているのはものづくりの立場で見ているのは遠州浜松の「やらまいか精神」に学べと言うのです。何で浜松市のようなまちからビッグカンパニーが生まれ、何社かですが中小企業でありながら世界に冠たる浜松を基盤にして世界に打って出ていくという企業があるのか。こんな地域は世界的にもないです。これはやはり浜松の伝統的なやらまいか精神。これは

浜っ風とか何かということを言われますけれど。

やはりそれは、一つは浜松高等専門学校があったからです。私も兄も本多電子、豊橋の本多電子、浜高の出身で、浜松ホトニクスの晝馬社長とか、平安テックの社長とか、それから、いろいろな人に私も会う機会がありました。やはりそういう人たち、先輩に会って、多くの刺激を受けました。やはり、これは浜高の存在。今は静大の工学部になったためにちょっと昔の浜高の復活というOBの運動もいつときありましたけれど、やはりそういう意味で、私の兄も豊橋市が発展するためには技術系大学がぜひ必要ということで技科大の誘致運動に変わってきて実現したと思います。やはり、やらまいか精神、これは世界に冠たるものが私はあると思います。

そういう意味で、先ほど安形産業部長からのお話は大変いいお話で、今日の「技」に関係すると思いますが、要するにビジネスもそうですがうまくやっているところを真似すればいいのです。世界中探してやはりうまくやっている場所がいろいろ、日本でもあるだろうし、そういった意味で私は浜松遠州の人に学ばなければいけないと常日頃言って、吉川さんによく怒られますけれども、私は製造業の立場ですから、そのような見方をしてはつきり物を言います。

そういう意味で、私は遠州そして浜松に学べと。やらまいか精神を学べと。先ほどのお話の中にあつた、具体的に申しますと、びっくりしたのが産業振興担当職員を置いているということです。そういう役所はないのです。新城を見ても。市長がうまく言いますけれど大したことない。実際にやっていること、明確で具体的なことをやらなければいけない。そういう意味で僕はやはり浜松の産業部長、やっていることがいいではないですか。スライドをどんどん回して、やはりそういううまくやっているところを真似すると。ビジネス

も同じです。うまくやっている。あそこの会社はなぜうまくやっているのだろうと。必ずいいところがあると思います。

それと、大事なことは、やはり「株式会社新城社長と思え」といつも市長に言っているのですけれど、トップセールスなのです。ビジネスもそうなのです。売れなければどうしようもないでしょう。販売でなくして事業なし。売れなければどうしようもない。格好いいことを幾ら言ったってしようがない。現実には厳しいのです。企業が赤字になったら倒産するのです。竹刀競技ではないです。真剣勝負です。だから、そういう意味で行政にもそういう分野が必要だなど。そういう意味で僕は浜松の役所でやっている、市長がやはりそういう考えで、やはり市長を教育というか、かなり強い力で進言する人がいるのではないかなと、産業界にいるのではないかと思います。

#### コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長

ありがとうございました。続きまして吉川会頭をお願いします。

#### 豊橋商工会議所 吉川会頭

今、本多会長が全部しゃべってくださいましたし、海外に進出している会社の責任者でございまして、私から何も申し上げることはございませんけれども、ちょっと総論型の話をしていただきたいと思います。と思っています。

地域経済の発展とか成長ということを考えた場合には、基幹産業でございまして製造業、また地域の特色を生かした観光などのさらなる集積または高度化を進めていくことが必要ではないかと考えております。そのためにも先ほどの発言でも申し上げましたけれども、地元で根差した人材の育成が大事でございまして、地域間競争に勝っていくためには新たな価値を創造できる力を強化していくことが

必要ではないかと考えているところがございます。そのためには、各地域におきましてそれぞれの得意分野があるわけですから、その得意分野を伸ばして、得意分野同士の連携をしていくことによりまして、新しい産業や技術商品開発を可能にする協力体制を整備することが大切ではないかと考えております。

あわせて、これからの経済状況を考えていきますと、人材を国内だけではなくて海外に求めて、国際市場で打ち勝っていける技術や技術者を育成するための研究・教育体制を整備することが必要ではないかと考えております。

産業競争力の強化の下地といたしまして、三遠南信自動車道の整備とインフラ整備を強力に推進いたしまして、本日、皆様からいろいろ発表がありました素晴らしい取り組みを、有機的に結びつけていけるような仕組みづくりこそが SENA の求められるべき事業ではないかと考えておりますので、よろしく願いを申し上げます。

#### **コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長**

吉川会頭ありがとうございました。それでは全体を通してご意見があればお願いします。安形部長何かございますでしょうか。

#### **浜松市 安形産業部長**

ありがとうございます。私、産業部でございます。産業部というのは、実は浜松市の場合は3年ほど前ですが、商工部と農林水産部を統合しまして産業部にしました。ですから、私は農林水産業、それから観光も当然含めまして産業部ということで、どうやったら稼げるかということを中心に考えています。

その中で当然、浜松市はもちろんですけども、豊橋市さんも田原市さんも新城市さんも皆さん、農業も非常に盛んな地域でございますので、私どもも六次産業化とか農商工連

携とか、あるいは新農業というようなところを非常に今、力を入れてやっております。

何を言いたいかと言うと、浜松市もたくさんの中山間地域が、先ほどお話がございましたように抱えておりますので、ここの地域振興をどうするか。あるいは全体の観光振興をどうするかというようなことは非常に大きな課題だと思っております。そういうことにも非常に力を入れてやっているわけです。今日は説明できませんでしたが、そういうことも推進しております。

この三遠南信の皆様方の会議の中ではやはり製造業を中心に、先ほど私、報告させていただきましたけれども、やはり世界との競争とか地域間の競争の中では、ここはやはりかなり力を入れないと地域が衰退すると思っております。引き続きこの連携を、産学官も含めて従来、長時間やってまいりましたけれども、更に、やはりまだ足りないところが相当あるのではないかなと思っております。

これをどう強化していくのかというのが一つと、もう一つは中山間地域を含めて、例えば産業観光とか、観光資源というのはたくさんありまして、工業も産業観光ですけども農業もそうですし、自然も食品も、先ほどの飯田線もそうだと思います。全部観光資源だと思います。ですから、そういうものをまとめて、地域振興というのをどうしていくかというの、大きな一つの議論の柱にさせていただければありがたいかなと思っております。

感想は以上でございます。

#### **コーディネーター／光産業創成大学院大学 江田リエゾンセンター長**

安形部長ありがとうございました。その他の方はいかがですか。

三上市長お願いします。

#### **湖西市 三上市長**

日本は森林がいっぱいあるが、今、木造住

宅がかなりできるのですけれど、どうも外国の材料を持ってくる住宅がすごく多いというように聞いています。考えてみたら、このエリアは森林の宝庫ではないですかと思うのです。あるいは間伐材をうまく使ったバイオマス発電とか、ボイラーに使うとか、いろいろなエネルギーを使えるのですが、もう少しこの木材を、森林を活用した産業をもっとうまくできないのかなと思う次第でございます。

ほとんど木材産業のない湖西市の市長が言うというのも変なのだけれども、我々、木材とまるで関係ない産業ばかりがある町なのですが、もっと活用してほしいなと思います。

**コーディネーター／光産業創成大学院大学  
江田リエゾンセンター長**

三上市長ありがとうございました。田原市商工会の河合会長お願いします。

**田原市商工会 河合会長**

人材育成というところで一つ気になったのですけれども、「一流に学べ」という言葉がいろいろありました。

実は田原市の商工会のでも、先ほどの自動車の関係があって、トヨタ自動車の田原工場というのがあります。近くにあるのですけれども、私どもの商工会だと5人以下の小さな商店とか20人以下の小さな企業ということもあり、トヨタさんが持っているノウハウというのをいかに取り込めるかというところがあります。今年、少し工夫をさせていただきました。お願いしまして、「改善の心」とか「見える化」ということに関してのセミナーを5人以下の小規模の事業者向けにつくってくださいという話をさせていただきました。今度11月6日ですけれども、200人ぐらいの方が入ります。そのために何回も打ち合わせをさせていただきました。こんなことも初めてなものですから。

この中で一つだけ気になった言葉がありま

した。トヨタの今の章男社長さんですけれども、改善のところ、「こんなにみんなよく頑張ってくれたね。でも、今よりもっといい方法があるはずだよ」という、ただその言葉だけであれだけの大きな企業が一つの方向にどんどん進んでいくという、その一番のエキスを教えてくれました。

一例なのですけれども、そうした一流を学ぶというところで、多分身近に一流があれば、お願いをして、そのノウハウを地域に生かしてもらえるのではないかなと。お願いをして、やってよかったということでありましたので、1点だけ報告をさせていただきます。

**コーディネーター／光産業創成大学院大学  
江田リエゾンセンター長**

ありがとうございました。本日皆様からのご発言をもとに、「技」分科会の結論として次の3点にまとめをさせていただきます。

一点目として各構成の取り組みとして、国内外からヒト・モノ・カネが集まるような魅力ある新産業および環境の創出・集積を図る。

二点目としてこれを更に発展・拡大させるために必要な人材をどうやって育成するか、県境連携あるいは大学、行政、企業、市民団体の連携という点から仕組みづくりを検討する。

三点目として環境を創出する取り組みの一環として、SENAの事業をどんどん実施していく。

以上です。皆様のご協力により円滑でかつ内容の濃い意見交換を行うことができました。ありがとうございました。以上を持ちまして、「技」分科会を閉会いたします。